

心、ここにアラブ

防府市立華城小学校 教諭 山本 直

(平成 17 年度派遣 アラブ首長国連邦 アブダビ日本人学校)

1. アラブに到着

「ここがアラブか!」「夜中の2時なのに暑いぞ!」

平成 17 年 4 月に、「アブダビ国際空港」(アラブ首長国連邦)に降り立った時の第一印象である。気温は約 28 度、湿度は 75%。お風呂の脱衣所にいる感じである。

深夜にもかかわらず、派遣教員の先輩方、大使館関係の方が空港に迎えに来て下さっていた。スクールバスでフラット(日本でいうマンション)に連れて行っていただいた。

この年の派遣教員は、私一人であった。それにもかかわらず、大勢の方々にお迎えをしていただき、本当にありがたいことである。

フラットに着いて、とりあえず、電話をした。無事にアブダビに着いたことを日本の家族に知らせるためである。そのときに置いてあった、

「ようこそ!アブダビ日本人学校へ」のメッセージと電話のかけ方を書いた手紙、「エジプト米」で作っていただいた「おむすび」の美味しい味は、今でもはっきりと覚えている。「なんとかアラブで頑張っていけそうだ」という勇気とパワーをいただくことができた。

ベッドに横になって、ウトウトしていたら、突然の大音量が聞こえてきた。時計の針は、午前 5 時過ぎ。

「アッラー、アクバル」「アッラー、アクバル」「アザーン」(イスラム教の信徒に対して礼拝の時刻を告げる呼び声)である。アブダビ市内のあちこちに「モスク」があり、フラットの側のモスクから流れてきた。

「これが、アラブか・・・」

「これが日本人学校の派遣教員のスタートか」と驚きとともに、なんともいえない感動をしたことを覚えている。



アブダビの夜景



アブダビの海

2. アラブの第一印象

「とにかく暑い!」「一年中暑い!」

これが、アラブの第一印象である。

しかし、建物の中は「完全冷房」であり、どこに行ってもキンキンに冷えている。

「外は暑い。しかし建物の中は寒い!」

これも、アラブの第一印象である。

「アラブ人は、親切!」「よく声をかけてくれる」アラブ人に対する印象である。

道に迷った時には、親切に教えてくださったことがたくさんあった。また、アラブ人が BBQ をしている時は、「一緒に食べよう」と声を掛けられることが何度もあった。アラブ人の優しさは、おそらく「イスラムの教え」のおかげだと思う。優しい人に本当に多く出会った。

「金持ちの国だなあ」「いろんな世界一があるな」これも、アラブの第一印象である。

いわゆる「オイルマネー」は絶大である。石油が出る前、約50年前は、「ラクダ」と「ランプ」と「移動型テント」の生活だったのが、「ラクダ」が「高級車」になり、「ランプ」が「イルミネーション」になり、「移動型テント」が「高級リゾートホテル」に凄まじい勢いで変わった。「オイルマネー」は凄いにつきる。



アラブ人との交流



世界一大きなキャンピングカー



世界一大きな国旗

3. アラブと日本とのつながり

「アラブの石油のおかげで、日本は生活できる」

「日本の車の4台に1台はアブダビの石油で動いている」先輩方から聞いた話の中で、記憶に残っている話である。

日本とアラブとの関係について身近に感じたのも、アラブでの生活のおかげでだといえる。そして、日本の国益のために働いている人が、こんなにたくさんいることもアラブに来て分かったことである。いわゆる「スーパー日本人」に出会えたのも人生の宝物の一つである。



総理の訪問

4. アラブの砂漠

「砂漠に遊びに行こう！」「砂漠で初日の出を見よう！」

アラブの生活の楽しみの一つに「砂漠」がある。「砂漠」は、本当に綺麗である。

特に、夕日が沈むころに影ができ、コントラストがはっきりするととても綺麗である。

アブダビ日本人学校の特色ある行事に「砂漠遠足」がある。小学部の低学年が行く行事である。児童は、本当に楽しみにしていて、砂漠の中を走り回っていた。

また、「砂漠キャンプ」という行事もある。小学部の中学年・高学年、中学部が行く行事である。子どもたちは楽しみにしていて、生き生きと活動していたことを覚えている。

「地域の特色ある活動」に取り組むことは、本当に大切だと思う。



砂漠遠足

5. おわりに

「アブダビって何処にあるの？」

「中東は大丈夫なの？」

出国前は色々な情報があり、周囲の人から心配していただいた。家族も心配していた。

しかし、いざ入国すると本当に充実した毎日で、あっという間の3年間であった。家族にとっても「宝物」の3年間であり、今でも「アブダビ」「UAE」「アラブ首長国連邦」というワードを目にしたたり耳にしたたりすると、すぐに反応してしまう。まさに「第2の故郷」である。この「宝物」を大切に、今後も国際教育に関わっていきたい。



夕方の砂漠



アブダビの風景